

いはぎ新報

發行日五、十五、廿五(三回)
福島縣石城郡平町
白銀町十五番地
發行所 いはぎ新報社
編輯兼發行人 印刷人 高木 壽
本紙定價 一部拾錢、一月拾錢、三月拾錢、半年拾錢、一年拾錢
廣告料 場所指定 拾錢、普通 五錢

石城政友部會が俱樂部を新築する

資金一萬圓を集めて 政界の熱血見

井上茂作氏を委員長として

石城郡政友部會は本年娛樂室等を設備するが寄附中に工費一萬圓を投じ俱樂部は五十錢以上にて廣く同志部を新築す可く決定委員長より募集する等であるが既に政界の熱血見井上茂作氏に小名濱町小野晋平氏其他を擧げ目下準備中であるが同志より五百圓以上の申込場所は平町南町警察署附みあり平町また三千五百圓近て百五十坪の敷地に七十を目標として集むる由であるの總二階建 郡内同志のから四月頃迄には起工の宿舎を兼ねる傍ら圖書及び運びに至るであらう。

縣政友會幹事長

佐藤氏後援會は却つて氏の立場を傷める

反對與論の氣勢を揚る

過般第三區から馬を進め同却つて同氏現在縣政友會幹事長志木村清治氏との間僅四百事長の立場を傷けるも甚九十余票の差で惜敗した政友會支部幹事長佐藤庄太郎氏に對しては當時各方面から多大の同情翕然として集り同氏を取り圍む政友派の有志間には今や氏の後援會を組織して飽く迄も支持し捲土重來を期さうと盛んなる策動をめぐらしてゐる模様であるが、石城郡には石城政友部會ある事はすれは官から森林議員に囑託さ

鈴辰縣議が

廿日森林會出席
縣會議員鈴辰三郎氏は商

れてゐるが来る廿日午前九時本縣廳内に開催される森林會議に出席する

奇篤な

平館と有聲座 七十圓を寄附

過般平町事務所金庫を寄附した飯田近治、久野比、平館主松田卯二郎の三の寄附を申出た由

難關の平町電燈問題

武田新所長極力斡旋 特に百燭制を設け 鐵柱外燈の復活を計る

平町の電燈料値下げ問題は杖曳く人群れに相當の賑ひ直接運動化して各町内鐵柱を見せ居るが來月に入れば外燈組合では遂に消燈をば書入れの花時だと氣早な決行し會社側對し巨額を連中がもうポックリ花見華投じた此の問題は平營業所備に取らつた者がある長の更迭等の爲め折衝停頓が、別稿電燈値下問題にての形であつたが新任營業所長武田清一氏は電燈問題に深く留意し需要家の立場に充分の考慮を拂ひ圓滿解決の一途に進進してゐるが可成り難關に乗り上げた同問題も案外容易に解決するもの如く觀られてゐる

新任武田所長

櫻花の下に

廣告燈の申込を受ける
選挙氣分も全く失せた今日此頃平地方は日増しに春めき立ち松ヶ岡南崖の梅園は

四丁目の青年が

揃への浴衣を着て 御輿渡御に奉仕

四月十八日の縣社子歛祭禮

平町の縣社子歛會社愛ひ平町南町星、驛前明雲現に同町の青年副團長衛生係りの職にあり信用と徳望の非なるもので濱三郎の四月十七八日に本祭りを執約し希望者に無料檢眼券を看板店として基礎益々堅く行するが十八日の本祭りに與へ前記醫院にて眼鏡の度愈々隆盛を加へ來つたのは御輿の渡御がある筈で本を檢査せしめて適度の眼鏡我平町の爲め喜ばしいこと年四丁目の青年分團員がを進める事になつた尙ほ、君は常に義と俠と東京松坂屋にて染め出した、は内外各國製品を豊富の血潮が充盈し居る点から揃への浴衣を着て御輿渡御に揃へ出來る限り廉價に販賣する由である

義と俠の人

塩田勝次郎君

大音堂店のごとも
平町白銀町大音堂店主塩田勝次郎君は熱心努力の人で

女學生の足袋が 年々大きくなる

運動熱が盛んな爲めに 体格が向上した

平町一丁目常盤屋時計店で最近女子の間にも運動熱にピンポンに其他健全な身は近眼若くは遠眼の人が益々横溢する傾向で警城心を築く上種々注意を注い台はない眼鏡をかけたり高等女學校にては此機運乘居るが其爲めが二三年以又は全然かけないでゐるが、將來の母体たるべき女子來同校生徒の体格は以前と神經衰弱を起したりそのの體を層改善すべく盛比較して非常に優れて來た他惡影響の原因となるのをんに運動を鼓吹し居り庭球其一例として三丁目三井吳活に浸つてゐる様であるが其裏面には、實に血を吐く様な悲痛さが積まれてゐる更には彼等の末路を見る時に思ひ半ばに當るものがある或は人の妻として、或は一家の主婦として、或は一人女としてのたしなみを持たぬ爲め人知れず血と涙を絞らねばならず、或は藝の達者な者は切めて師匠として老ひ先き永がらざる孤獨のさびしさに漸く其日を送るつてはならぬと盛に自覺の憂もなく、悲しといふ状態にて眞に家庭の氣聲を擧げてゐるにつけてみもなく、祝福其まの牛人として祝福された生活を

平藝妓の覺醒に相俟つて 修養機關の組織が必要

階級思想の争闘は、應て様々階級下層に壓しつけられ、各層に浸潤されてゐる、十ねを續けてゐるに過ぎない、數年前より最も目ざましいのは全部とは言はぬが藝妓運動を續けて來たのは水平諸層である、所謂特殊部落として虐げられてゐた人達華やかな環境で、美しい衣、は、今や人間として、日本帝裳に包まれ年々浮かれ氣分國民、として些の區別が、其日を送る彼等の日常はつてはならぬと盛に自覺の憂もなく、悲しといふ状態にて眞に家庭の氣聲を擧げてゐるにつけてみもなく、祝福其まの牛人として祝福された生活を

不平受付

不平受付 何か用事
受付けはそれ程でもありませぬが一度要内へ這ると私服や其他の警官の應接振りは頗る傲慢で私の様な小心者には口にもききませぬ、其爲め雇入等は用事の際等にも警察行を嫌がつて困ります(一商店主)

服店內足袋部の語る處に依れば數年以前は女學生間に八文位の足袋が多く賣れて居たが今では大抵八文あたりに十文の足袋を求めざる者もある由で一寸した事だ女生徒の履く足袋が益々大きくなつて行く事は體軀の向上を示すもので誠に喜ばべき現象と云はねばならぬ

